

Ecola

イ・コ・ラ

No. 18
発行 2013年5月12日

新緑がまぶしい季節となりました。

今年はいつまでも肌寒く、また花粉や黄砂以外に何やら飛んでくるものが増えて、ちょっと「さわやかな外出を満喫する」にはイマイチの日々が続きました。でも、さすが5月ともなると、やはり子どもたちのはしゃぎ声に誘われて、ウキウキ気分であちこちに出かけたくなくなってしまいますね♪

さて、分会ニュースレターイコラでは、今回も活動やイベントなどを盛りだくさんにお伝えします。また、ご存じ「岡先生のワンポイントアドバイス⑱」では、イコラ発行からの12年間をふり返り、自閉症研究や支援が進む中でなお残る困難さや課題についての岡先生の思いが綴られています。じっくり読んでいただければ、と思います。

では、お茶でも飲みながら、ごゆるりと♪

和歌山市との対話集会

が、11月8日（木）、和歌山市保健所3階大ホールにて行われました。

和歌山県との対話集会

は、11月20日（火）に、あいあいセンター3Fにて行われました。



対話集会は、自閉症協会として「子どもたちが何を困っていて、何が必要なのか」などの状況を県や市のそれぞれの担当の方々に直接伝え、話し合う場です。写真は「市との対話集会」の様です。

就学期お母さんの交流会

12月7日(金) 中央コミュニティセンター 活動室2 会員限定 参加者8名

1月18日(金) 中央コミュニティセンター 和室(大) 一般参加OK 参加者22名(会員10名、一般12名)

2月28日(木) 中央コミュニティセンター 活動室3 会員限定 参加者17名(うち紀北3名)、ゲスト2名

この日は、「就労勉強会」を行いました。



2月28日の会員限定のお母さん交流会は、スペシャルゲストとして、昨年高等部を卒業し、現在作業所に通っている方のお母さん二名に来ていただき、就労の体験談を話していただきました。

支援学校高等部での就労に向けての取り組み、現場実習の内容、就労先が決まるまでの経緯や就労先に選んだ決め手、職場でのお子さんの様子などを話していただきました。

そのほか、作業所で働くとはどういうことなのか、在学中にどんな準備をしておけばいいのか・・・についても、いろんな側面からていねいに教えてください、とても参考になりました。

想像していたより厳しい現実があることも分かって、参加された方は、それぞれに意識改革があったのではないのでしょうか。

今年度は、県本部の事業で、施設職員さんのお話を聞くことができる学習会が企画されています。職員さん側からの希望や想いを聞くことで、就学期にやっておくべきことなども見えてくると思います。こちらもぜひご参加ください。



バスツアー

10月28日(日) 須磨海浜水族園&マリニピア神戸 33名参加

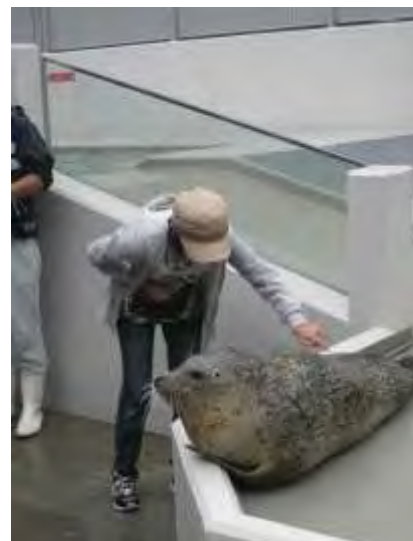
一昨年、昨年と、2年続けて雨のため「神戸しあわせの村」に行けず、今回も3度目の正直と、「神戸しあわせの村」を予定していましたが、またもや雨・・・で、須磨海浜水族園とマリニピア神戸に行ってきました。



須磨海浜水族園では、いろいろな魚やラッコ、ペンギン、アザラシに加え、アマゾン館では、世界最大級の4～5mもある珍しいピラルクという魚や、オオアナコンダ水槽には、日本最大級のオオアナコンダがいました。

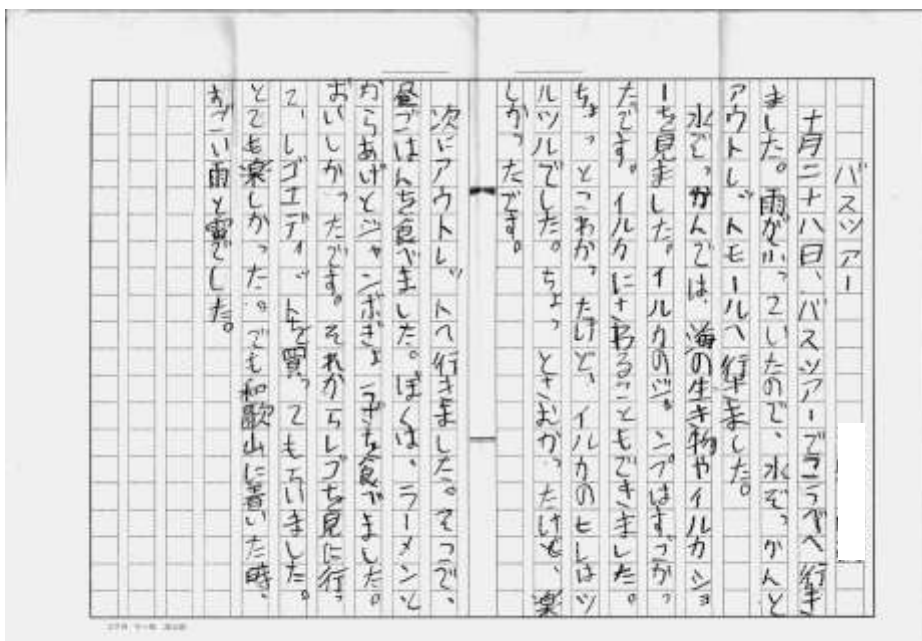
また、イルカやアザラシにさわられるコーナーやイルカショーもあり、それぞれ自分の好きなお店で楽しんだようです。大人気のウミガメメロンパンをおみやげに買っていた人もいましたね。

午後からは、少しバスで移動して、マリニピア神戸に行きました。アウトレットモールでお買い物したり、マクドナルドでお茶したり、隣のスーパー銭湯へ行ったりなど、それぞれの時間を過ごしました。



バスツアー中は雨も小雨程度で、ほとんど傘も使わなくていいぐらいでしたが、和歌山インターを降りたぐらいいから土砂降り、バスから降りる頃には道が川のようになっていて、マンホールから噴水のように水が吹き出していました。

今年こそ、「神戸しあわせの村」に行けるでしょうか？



自閉症・発達障害療育セミナー2012

平成24年度県補助金事業

11月18日（日） 中央コミュニティセンター多目的ホール小にて

「コミュニケーションするために」～その基本となる考え方とさまざまなアイデア～
香川大学教育学部特別支援教育講座准教授 坂井聡先生



11月初旬には受講申し込みが少なく、「どうなることか・・・」と心配していましたが、当日は、椅子を増やさないといけないほどの大盛況でした。

自閉症児・者の支援には、やる気と愛情、そして技術を持つことが必要だということで、スマートフォンのアプリが紹介されました。「教室で、先生の板書をノートへ書き写すことができない子は、スマートフォンや携帯のカメラで写していいのではないのか」と先生がおっしゃられたとたんに、何人かの方がスクリーンを写し始める姿を見て、「自閉症児・者に便利なことは、誰にとっても便利なんだなあ」と思いました。

「自閉症児に、下の子のお下がりを持たせたりしていませんか？」という問いにドキッとした人も多かったのでは？「本人が嫌がらないから」や「自閉症だから」ではなく、「11歳からは生活年齢に合ったおしゃれな服や小物を持たせましょう。そして、ハイテクグッズで羨ましがられる自閉症児に！！」との提案に、楽しい笑いの中で、視点を変えて考えることの大切さを学んだ貴重なセミナーでした。



身近な環境を
予測しやすく
理解しやすいものにする！

代替コミュニケーションで
できることを増やす！



著書：『自閉症や知的障害をもつ人とのコミュニケーションのための10のアイデア』（エンパワメント研究所）
『ケータイで障がいのある子とちょこっとコミュニケーション』（学研）ほか多数

人権フェスタ

11月17日（土）、18日（日）

和歌山ビッグホール



今年も、田辺絵画教室で作成した子どもたちの作品の展示、支援グッズの展示、書籍の販売を行いました。

また、17日午後には、ポラリス所長辻幸代先生の相談会も行いました。



母親クッキング

3、4カ月に1回(年4回)中央コミュニティセンター調理室で開催されているところにおじゃましてきました。

Q： いつも何人ぐらい集まられますか？

A： 18人前後です。ほぼ固定メンバーになりつつありますが、毎回若干の空きもある（定員20名）ので、初めての方も歓迎ですよ。

Q： すごく多くの種類を作られています、メニューはどうして決められますか？

A： 主に赤瀬さんと二川さんが、みなさんの意見や季節を考慮して決めてくれています。

Q： レシピが見当たりませんが・・・？

A： ベテラン主婦の集まりですので、レシピは不要です。わからない時は、「どうするの？」と聞くと、「こうして！」「この味付けで・・・」など、口頭でのやりとりで充分です。

Q： どんなお話をされていますか？

A： 「どこに行った」や「何を食べた」という話もありますが、体調（病気）のことから、やはり「子どもの将来の話」が中心になりますね。



ボウリング大会

2月24日（日） 和歌山グランドボウル 42名参加

昨年度より寒い時期の開催となったボウリング大会。今回は、新しく入会された就学前のお子さんの参加もあり、にぎやかに行われました。

重いボールを投げるのが難しい小さな子どもたちも、すべり台のような補助台を使ったり、レーンの溝をふさいでガターにならないようにするシステムで、まぐれのストライクが出て喜ぶ姿が見られました。ボウリングは、順番を待つという練習にもいいですよ。



成人の方や保護者の方は、カー杯投げて日頃のストレスや運動不足を解消されたでしょうか？
いつも見学されるお母さんも、次はプレイしてみませんか？

参加の方の感想です

ボウリング大会に参加して

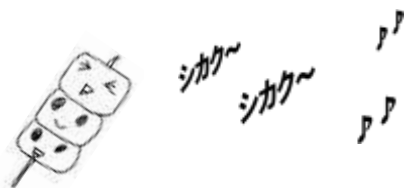
今年初めて参加しました。去年はまだ小さいので断念しました。

参加してよかったです。なぜなら、子どもが大喜びで、早く自分の番が来ないかとわくわくしながら待っている顔を見られたからです。親としては子どもの笑顔が一番うれしいです。

知らない人といっしょにボウリングを楽しめたこともビックリです。「嫌がるかな・・・」などと気にしていたのは私だけのようでした。子どもはすぐ慣れるというか、気にしないというか……。これから先も、参加できるようなことは参加していきたいです。

ちなみに、うちの子は、「ママ、ボウリング！」「行く？」「行く？」などと、うるさいです。

岡先生のワンポイントアドバイス①⑦



12年間のイコラを振り返って

附属特別支援学校 岡 潔

イコラに連載を書き続けて12年になりました。私が今の学校に勤務したころにスタートしたのですね。当時小1だった子どもが、この春、高等部を卒業して作業所で働き始めました。この12年の間、世の中は本当に変わりました。ワンポイントアドバイスの第1回は、だんご3兄弟の替え歌で♪言葉かけより 視覚 視覚♪と、自閉症には視覚支援なのだとお伝えしました。12年たてば、♪あたりまえ～ あたりまえ～♪となりましたよね。

第3回では、和歌山県にも自閉症・発達障害支援センターの設置を願う特集をしました。厚生労働省がこの事業を実施し始めたのがこの年、平成14年度からでした。発達障害者支援法の成立など時代の流れに乗り、和歌山県に発達障害者支援センター「ポラリス」が誕生したのが平成17年の秋。統計ものは後から数えた方が早い和歌山県ですが、全国でも26番目の早さで設立されたことは今でも誇りに思っています。第7回のアドバイスにもポラリスが和歌山県の希望の星になってほしいと願って記事を書かせていただきました。今では県内のネットワークの要となって活躍されていますね。第15回でも書きましたが、自閉症者とその家族をサポートしてくれる社会的資源、人的資源などを作っていくことは、誰もが安心して暮らせる社会につながっていくのだと強く信じています。

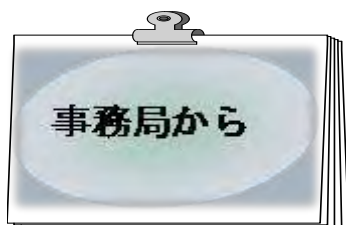
教育界では、平成19年に特別支援教育の実施が開始されて6年の歳月が経ちました。連載の第14回でも特別支援教育の成果と課題について書きま

したが、個々の教育的ニーズの違いによって多様な学びの場が生まれてきていることは本当によいことだと思います。しかし、逆に特別支援学校を選ぶか地元の小学校に進むか、随分悩んでいる保護者の方も多いのが現実です。前回の記事にも書きましたが、早期に適切な指導ができていない場合、トラウマなど二次障害を引き起こし、問題行動が増えることも考慮しなくてはなりません。ゆえに、できるだけ早くから専門の教育を受けさせた方がよいとも言えます。共生社会の実現をめざしインクルーシブ教育が進められている中で、本人や保護者の意見がどのくらい尊重されて就学指導委員会の判定が出されるのかも大きなカギとも言えます。当然、小学校において一人ひとりを丁寧に教育するための基礎的環境整備が充実していて、具体的な障害などの教育的ニーズに対応した合理的配慮がなされているなら安心して地域の学校に託すことができるでしょう。一方、専門的な教育が受けられると期待して特別支援学校へ入学させても、こんなはずではなかったと思われる保護者が多いのも事実です。学校は謙虚になり、変わらないといけません。今、特別支援学校に求められているのは、理論に基づいた、より専門の教育だと思います。

自閉症についての研究もここ十数年でいろいろと進んでいます。もうすぐDSM-V(「精神疾患の分類と診断の手引」第5版)として、自閉症の新しい定義が出されます。新しい定義では、自閉

症、アスペルガー、広汎性発達障害等を「自閉症スペクトラム障害 (Autism Spectrum Disorder)」略称：ASDという一つの診断カテゴリーにまとめられるようになります。早期発見に基づく早期療育は、自閉症状の重篤化を防ぐことができ、最大限の発達・適応を促すことにつながります。それゆえに今後とも診断のもつ意味は大きいと思います。ただし、スペクトラム (連続体) ということから言えることは、発達障害的傾向は、誰でも

大なり小なり持ち合わせていて、その傾向が強いか弱いかで、人がこの社会での“生きにくさ”を感じるか感じないかということになるのではないのでしょうか。人との関係性の問題、イメージの持ちにくさ、感覚の問題など自閉症の人が難しいことは今も昔も大きく変わっていません。これからもお互いに歩みよりながら、地道な努力を続けていくのみとしみじみ感じる今日この頃です。



班長会

写真は、3月14日に行われた班長会の模様です。夜の役員会に出づらい班長さんが多いため、年2回平日の昼間に開催しています。



今回は、24年度の活動報告、総会の予定、25年度の活動予定 (バスツアーの行き先、講演会)などを話し合いました。現在、役員の大半が学齢期の保護者なので、班長会議では年代の違う方から貴重な意見がうかがえます。(個人的な悩みの相談にもものってもらっています。)

今年度は、班の編制を少し変えていますので、新しい意見が聞けると期待しています。



事務局長に就任して

事務局長を任されてはや1年、以前からの行事をこなすのが精一杯でした。今年度は、新しい行事等を企画できるよう、事務局が一丸となり取り組んでいきたいと思っていますので、会員の皆様のご参加、ご協力をよろしくお願いいたします。

(事務局)江川かがり

編集後記：今回は、都合で編集会議を開く時間ももてず、メールやファックスで連絡を取り合い、何とか無事仕上がりの運びとなりました(ほっ♪) イコラも18回目となりましたが、今後も、イベント報告だけでなく、もっと何か有益で楽しい情報提供をたくさん提供したいと考えています。皆様のご意見をお待ちしています。

編集スタッフ：尾崎富久子・江川かがり・藤原昌子・植野比呂美

《発行》イコラ編集局 (連絡先) 植野比呂美

Tel/Fax :

e-mail:h.ueno@poole.ac.jp

※ イコラはWeb版も出しています。ぜひカラーでもお楽しみ下さい。バックナンバーもご覧いただけます。和歌山県自閉症協会ホームページからどうぞ！